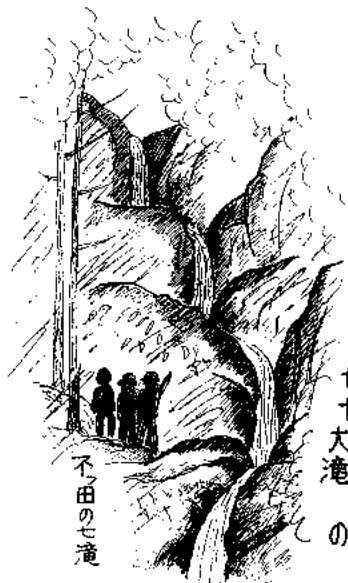


奥三河の夏の自然

学習会「奥三河の滝めぐり」
(平成22年7月4日 42名)

パワースポットはあるのか……？
今回は奥三河の中央構造線上の滝を訪ねました。
長篠城跡の不忍の滝は結晶片岩、七郷一色の百間滝は圧砕岩、阿寺の七滝は礫岩、不田の七滝は圧砕岩、大野桐谷の不動滝は泥岩にかかる滝です。まさに複雑です。
前日からの雨で水量も多く、見ごたえのある滝めぐりでした。



不田の七滝

夏の湿原の自然観察
(平成22年7月4日 15名)

生物多様性を学ぶ現地見学会の2回目です。県内唯一の泥炭湿原で知られる作手高原の湿原群の見学ツアーです。

庄ノ沢、清岳向山、長ノ山湿原とまわりました。夏の湿原に咲く、かわいいサギソウがすでに一株咲いていました。見頃は7月下旬から8月で、次にはサギソウの群舞が見てみたいです。



サギソウ

特別展「あいちの鳥 コノハズク」展
(平成22年5月9日～6月27日)



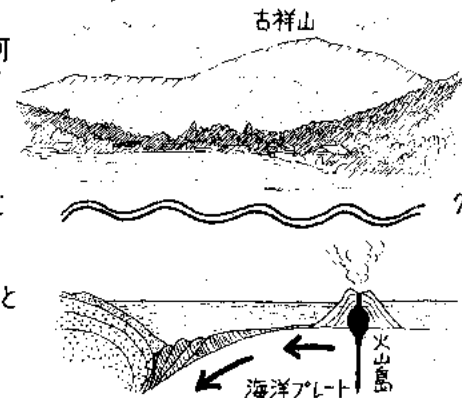
あいちの鳥 コノハズク展

鳳来寺山のラジオ放送の成功から75周年、COP10が開催される愛知県の鳥の音と今について知ってもらうために企画しました。

県内の生息地は、鳳来寺山以北の奥三河地方に限られ、生息数も減って県のレッドリストにも名を挙げざる現状です。四谷では8月のお盆頃まで鳴いていました。鳳来寺山では、今年は1回のみ。

特別展「あいち奥三河の自然と多様性」展開催
(平成22年7月21日～10月31日)

愛知の自然を代表する奥三河の地質、植物、動物を紹介していきます。地質の多様性では、奥三河の大地の成り立ちをわかりやすく解説してあります。
吉祥山は火山島が、プレートにもぐり込むときに、はぎとられてへばりついたもののようです。いつとながめるあの山が、いきいきと躍動する姿に見えてきました。

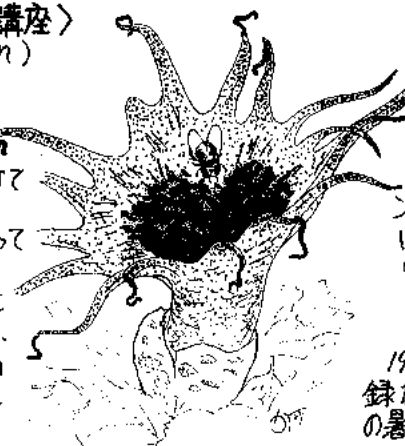


吉祥山

海洋プレート 火山島

キノコのふしぎく子ども自然講座
(平成22年7月22日 4名 晴れ)

鳳来寺山近くの山で、きのこの観察と採集をしました。
急な傾面とマアをかき分けてのきのこさがしになりました。目がだんだんと「きのこ目」になってくると、次々と見つかりました。
学習室にもとって分類してみるとアクロツルタケ(猛毒)やベニイグチ、ケショウシロハツなど、43種が判別しました。森で植物と生きる、きのこのくらしについて学ぶことができました。



鳳来寺山にイソギンチャク？
(平成22年7月20日)

鳳来寺山パークウェイの料金所から「本堂近くの歩道脇に赤いイソギンチャクのようなものが生えとるけど、いったい何だのん？」と電話が入りました。
さてはと思い、とんで行くとやはりアカイガケでした。鳳来寺山では、1983(昭和58)年8月10日に発生の記録があります。熱帯系のきのこで、今夏の暑さで、スズの登場となったようです。

はぴなごたごた 16.141
2010.7

学校の利用(4月～7月)

新学期が始まると学校の利用も多くなります。毎年来館してくれる学校に加え、今年は初めて利用してくれるところが増え、うれしいです。
来てよかった。来年もぜひ来ようと思ってもらえるよう努めなければいけません。
来館していただいた学校は次の16校です。ありがとうございました。

4月30日	東陽小学校	149名
5月28日	豊橋南高校	318名
6月3日	矢田小学校	118名
3日	白木中学校	97名
5日	東郷西小矢部子ども会	21名
9日	鳳来西小学校	27名
14日	鳳来中学校	95名
17日	鳳来中部小学校	42名
17日	富士見小学校	111名
30日	佐久間小学校	6名
7月2日	私学理科教員研修	15名
8日	豊田養護高等学校	52名
12日	新城小学校	37名
14日	千郷小学校	119名
15日	新城小学校	37名
26日	巴小学校	41名



の自然と多様性

鳳来寺山 自然科学 博物館

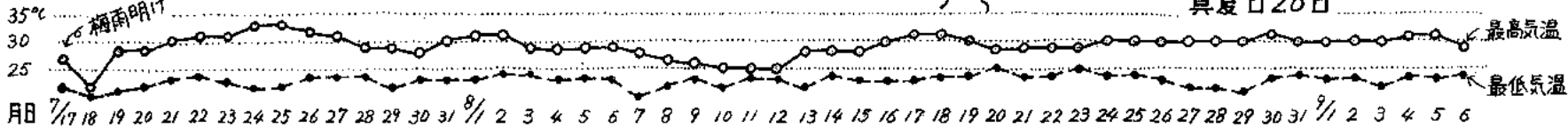
博物館も暑かったです!



鳳来寺山
自然科学
博物館

はつなごり no.142
2010.8

真夏日26日



博物館中で計測したものです



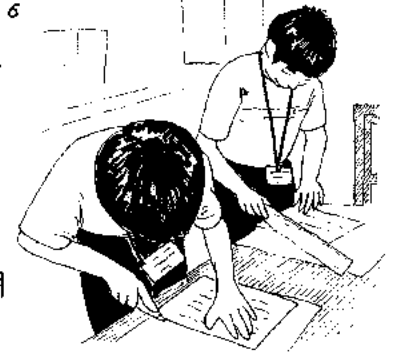
子ども自然講座「トンボやチョウのふしぎ」 (平成22年8月1日、晴れ、8名参加)

鳳来寺山麓の休耕地で昆虫の観察と採集をしました。動きが早く、上空を飛びまわるとトンボを捕えるのは、むづかしかったです。午後は採集したトンボやチョウの名前調べと標本づくりをしました。捕虫網や三角紙の使い方、展翅板作りから展翅、展足の仕方まで、じっくりと体験することができました。



生物多様性を学ぶ現地見学会 「秋の棚田と自然」 (平成22年8月28日 18名参加)

刈り取りを前にした島田の棚田と四谷の干枝田、そして博物館の特別展「あいち奥三河の自然と多様性」の見学をしました。初夏の田植え時期にフタ(1)で2回目です。田の中干しを少しずらしてオタマジャクシからカエルへの変態を助け、農業によらない害虫駆除を実現して(1)ます。



職場体験と学芸員実習

博物館では毎年職場体験や研修、実習をとおして博物館活動を体験してもらっています。今年は中学生の職場体験で、東郷中の伊藤くん、鳳来中の藤原くん、竹内くん、学芸員実習では、淑徳大の松田さんでした。ここでの経験が生かされるのは幸いです。

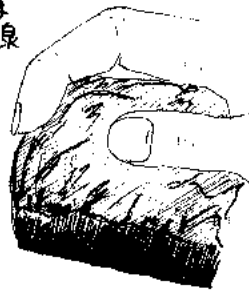
真夏のガイドツアー

暑い時期にもかかわらず熱心に博物館を活用してくれるグループや学校があります。ガイドツアーでは、館で作成したガイドブックを使い、展示見学の案内と野外観察をセットでガイドします。この夏は4グループをガイドさせていただきました。海翔高校(弥富市)(21名)、連谷小学校教員研修(5名)、愛知大学大沢ゼミ(19名)、教育研修会中学校理科部会(19名)



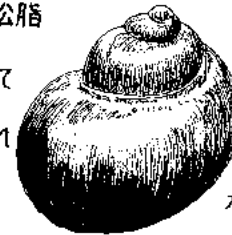
ヤマカガシの奥歯 (平成22年8月9日)

ヤマカガシの上あごの奥にある歯でかまれるとディベルノイ腺からの毒が入ることがあります。どんな奥歯なのか、友の会の小椋会長が、ヤマカガシをつかまえ、大口をあけて見せてくれました。



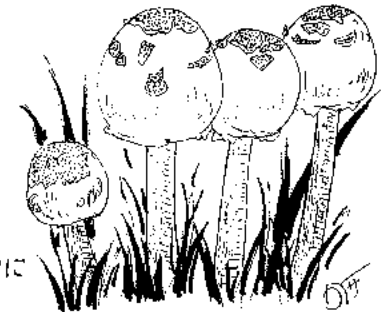
子ども自然講座「古代人に挑戦!石器づくり」 (平成22年8月22日、晴れ、21名参加)

高徳の谷で石器に適した石をさがしました。この沢では頁岩や流紋岩、松脂岩が見られます。今回は頁岩を研摩して石器をつくりました。ジャガイモの皮むきで七かれあじを石確認しました。



ジャンボタニシ見つかる (平成22年8月5日 七郷一色)

スズリゴカイのことで、稲の苗を食べてしまう外産種です。山の水田にまで侵入してきているようです。



ジュニアナチュラリスト養成系級 「川原の学校・石ころ教室」 (平成22年8月8日 13名参加 晴れ)

第1回目の授業を桜洲の川原で行いました。石の種類が豊富な場所です。色や形、 모양など、自分流の分類に挑戦しました。仲井先生(校長)の解説で、成因による分類もできるようになりました。



オシロカラカサタケ出現 (平成22年8月16日、中辛利)

熱帯から亜熱帯地方に分布する白いきのこで、近年分布を広げています。ここでは用水路脇の道路沿いに4本が発生していました。成熟すると、ヒタの色が暗緑色になる毒きのこです。

秋とCOP10と博物館

コリハズグの話題
(平成22年10月10日)

博物館に1通のうれしいメールが届きました。豊橋市の幸公園で撮映されたコリハズグの写真の間違いを知らせました。移動の途中で羽を休めていたのでしょうか。どこから来て、どこへ渡っていくのか。謎の多い鳥です。新豊根ダムでは9月14日まで鳴き声が聞けたようです。



生物多様性を学ぶ講演会
「松のコモ巻き調査から得られた生物」
(平成22年10月17日、20名受講)

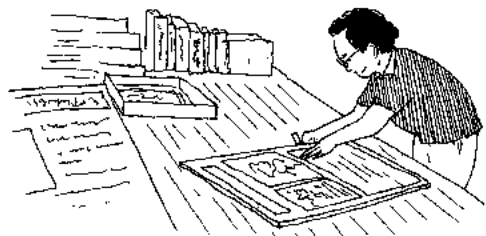
当館学術委員の緒方清人先生が講師でした。

松の葉を食べる害虫、マツカレハ(マツケムシ)の防除のためにおこなうコモ巻きに多様な昆虫やワモが越冬していることがわかりました。コモには、マツカレハはほとんどおらず、その他の生きものたちが、春にコモといっしょに焼去されているのが現実のようです。



社会体験型教員研修
(平成22年9月22日~11月19日)

約2ヶ月間、鳳来中学校の小林先生が博物館で研修をしました。COP10関連事業、秋の特別展準備、観察会などがめじろおしでしたので、即戦力として奮闘してくれました。館のさまざまな仕事の一部を体験してもらえたのではないかと思います。博物館友の会にも入会してくれ、協力隊員にもなっていただきました。



ジュニアナチュラリスト養成楽級
川原の学校「石ころ教室」

第2回は川のようにと河岸段丘。石巻山で豊川の河口までの川の流れと地形を観察した後、新城市川路で河岸段丘の高さを測りました。ハンドレベルとミニロッドを使って測量しました。下段の高さは約18m、上段は約7mで、各グループともほぼ近い測量結果となりました。(9月25日)

第3回は石のふるさとを訪ねる教室です。玖老嶽、鳴沢の滝、六地藏、黄柳野と、それぞれ異なる地質からなる石のふるさとをめぐりました。

人の何倍もある巨礫の大きさを測ったり、石のちがいと地形、地質の関係、水のはたらきなどについて、現地ですべてをとおして学ぶことができました。(10月31日)

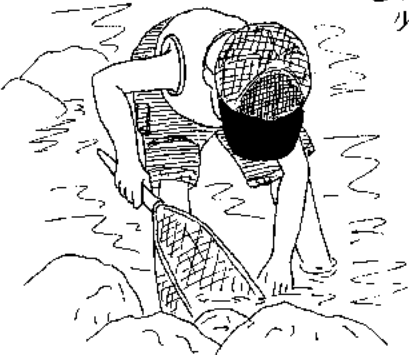


川の生きものを調べよう
(平成22年9月12日、45名)

スしぼりに館の前を流れる音為川でおこないました。

きれいな水の指標生物のサワガニやカワゲラ、ヘビトンボ、ウズムシ。

少しきたない水にすむヒラタドROMシ、カワニナ、ケンシボタルなどが見つかりました。総合評価は、「きれいな水」ということで、少し安心しましたが、ホタルが舞うためにはカワニナがすめる、少しきたない川の環境が必要そうです。



はつなだもり 76.143
2010.10

COP10公式エクスカーションの来客とモリコロパークへの出展
(平成22年10月23~24日)

名古屋で開催された生物多様性条約第10回締約国会議に関連して新城の自然の多様性を紹介するアース展示を、愛地球博会場跡で行ってきました。協力隊のメンバーも応援に来てくれました。会場では決まったばかりの市の石(松脂岩)、市の鳥(コリハズグ)も展示。コリハズグの鳴き姿も上映し、よろこばれました。また、東海農政局が企画したエクスカーションで海外からのCOP10参加者一行35名が四谷千枝田と博物館の見学に来てくれました。



マツタケモドキ



バカマツタケ

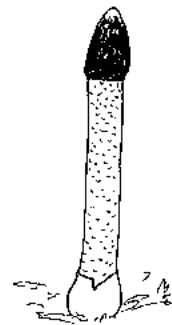
似て非なるものたち
(平成22年10月14日)

きのこ豊作のニュースで多くの人が入ったようです。めざすはマツタケ。そっくりだけどちょっと違う。採集マツタケと採れて、きのこ相談に持ち込まれました。

学習会「きのこを調べよう」
(平成22年10月10日、43名)

今年は例年になくたくさんのきのこが見られました。調べたところ68種でした。

オオゴムタケやキツネノロウソクなどのおもしろい形のきのこや、タマシロオニタケ、クサウラベニタケなどの常連の毒きのこたちも顔を出していました。



キツネノロウソク



はつなだり 秋の博物館かいわれ

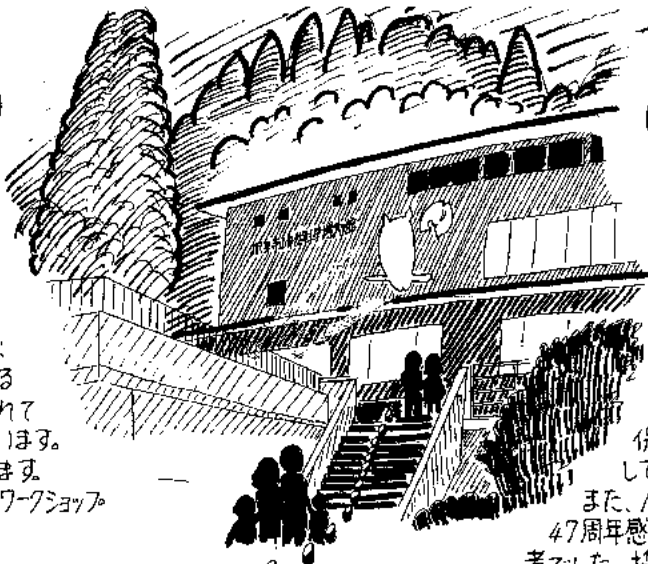
はつなだり 16.144
2010.12



特別展「自然が好きな仲間たち」
(平成22年11月2日～23年2月28日)

東三河で活動する自然を愛する仲間たちの展示会です。山から海まで、さまざまな地域で活動するグループが、ブースに分かれて活動を紹介します。展示を行っています。博物館友の会も出展しています。

期間中は、活動報告・交流会やワークショップも開催します。



ナイトミュージアムとフェスティバル

鳳来寺山とみじ祭りのイベント「千の灯」にあわせて11月20日、27日、12月4日に夜間の開館をしました。外壁にコハスワのシルエットを浮かびあがらせ、屋上からは紅葉のライトアップ。いい感じになりました。おかげさまで竹ロウソクの灯に導かれて参道を訪れた家族づれやカップルがおおせいで入館してくれました。保護飼養中のオオコハスワたちも来館者サービスに貢献してくれました。

また、11月20日～23日の47周年感謝祭も最高の来場者でした。協力隊のみなさんの活躍にただただ感謝です。



協力隊の研修
(平成22年11月27日)

隊員11名で碧南海浜水族館の視察研修に行ってきました。バックヤードを見学してもらい、管理や生態などくわしく案内していただきました。ガイドや展示コーナーの工夫、グッズの開発などとても活発な活動がおこなわれていて、勉強になりました。

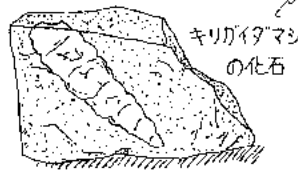
学習会「岩古谷山の紅葉と岩壁の植物」
(平成22年11月14日、27名、くもの)

絶景でした。錦に彩られた山々に心の中まで染まるようでした。そしてそそり立つ岩壁に根のか幹のかのかわからない姿でくわいついている木々にも感動しました。



学習会「博物館周辺の地層と岩石」
(平成22年12月5日、34名、はれ)

高徳林道沿いに1700万年前の海成層の地層を観察し、化石をさがしました。さらに奥へと進むと、火成岩が現れてきます。鳳来寺山を代表する松脂岩も採集できました。



活動報告・交流会
(平成22年12月2日)

9つのグループの発表がありました。どの団体の活動もすごいです。敬服します。ふるさとの自然に誇りを持って、大切に思う気持ちが伝わりました。とても良い刺激と啓発を受けました。今後も交流や何かのときには連携できる仲間でありたいと思いました。



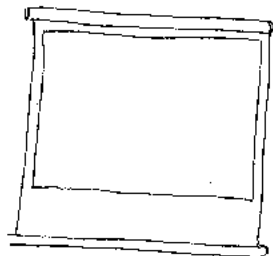
石ころ教室最終回
(平成22年11月28日)

「川石の中の宝石探し」のテーマで豊川(寒狭川)と宇連川の石を採集しました。ふるいにかけた後、ヒーターに入れて川の水を使って比重選別して鉱物を取りだし、顕微鏡で調べました。最後に、仲井豊校長先生から生徒に修了証が手渡されました。



展示参加グループ

- あかほね塾
- 岩屋緑地に親しむ会
- 奥三河自然保護研究会
- 風の自然学校
- 汐川干潟を守る会
- 作手自然愛好会
- NPO 表演ネットワーク
- NPO 東三河自然観察会
- 豊橋市自然史博物館 ボランティア
- 東三河野鳥同好会
- 鳳来寺山自然科学博物館友の会
- 三河生物同好会
- 谷の口里汝里山育成会
- 鞍掛山麓千枚田保存会



報告・交流会前夜
(平成22年12月11日)

報告会に先だって、近くの旧門谷小学校で情報交換会を行いました。皆で食材を持ち寄り、鹿鍋を囲みました。

館長が新米 紫黒米ごはんを炊きましたが水が多すぎて、おかゆ状態になってしまいましたが、雑炊に变身。大量にあった鍋も飯も、報告交流会に出していただき、きれいに平らげられました。

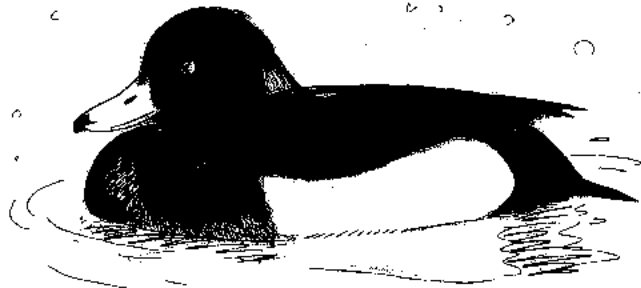


冬の寒さの中で

横山良哲前館長逝去（平成23年2月1日）



はつなだより 16.145
2011.2



野外学習会「水鳥を観察しよう」

（平成23年1月16日、20名参加、くとり→雪）

前日の大雪の後の観察会になりました。ツグ類は4種、水鳥はキンクロハシロなど17種が見られました。野山の鳥も含めて35種が確認できました。前年は38種で、ほぼ同じような類ふれです。雪が残る銀世界と、灰色の寒空でしたが、鳥たちはふたんと変わらないようでした。

どのように受け入れてよいかのわからないほどの深い悲しみです。失うには大きすぎて、言葉もありません。平成8年から10年間にわたり、館長として博物館の運営に心をくだいてくださいました。大規模改修、40周年、館長と歩く自然シリーズ、職員自主研修などなど、いっしょにすごした数々の思い出が次々とあふれ出てきます。これからも、いっしょに、あの笑顔で、身近に指導していただこうと思っただけで、残念でなりません。ゆっくりお休みください。



節分に間にあわなかったセツファンソウ
（平成23年2月12日、咲き始め）



年末の12月28日に雪（ヒョウ）が降り、1月16日に12cm、30日に5cm、2月11日には2cmの積雪がありました。最近はずっと暖かい冬が多かったので、ひときり寒く感じます。博物館のセツファンソウも昨年より10日遅い開花となりました。

生物多様性を学ぶ現地見学会「新城の蛇紋岩地帯をめぐる」

（平成23年2月5日、21名参加）

新城市の東部、中央構造線の東側には蛇紋岩地帯が分布しています。超塩基性の岩石で、かんらん岩などが水と反応してきた変成岩です。ヘビの皮のような光沢があるので、この名があります。風化しやすく、もろくて、くずれやすい性質がありますが、植物は育ちにくい特徴があります。蛇紋岩地帯の植生は、周囲と比べて特異なため、一目でそれとわかります。市内には、黄柳野（国指定天然記念物…ツグ自生地）と中牟利（県指定天然記念物…丸山の蛇紋岩植生）にその特徴がよく見られます。



この日は、代表的な2ヶ所を中西先生の案内で見学しました。ただのハゲ山ではなかったのですね。

フィールドと館内の案内うけたまわります

- 気の向くままに展示物を見たり、自然の散策をするのは楽しいのですが、時には目的をもって、詳しく案内してもらいたいものです。秋からこれまでに、様々な要望をいただきました。少しはお役にたてたでしょうか。
- 22年10月1日 岩倉小学校：地層と化石ガイド
 - 10月2日 穂の国エコカレッジ「穂の国の菌類」
 - 10月3日 碧南水族館一行：きのこ観察ガイド
 - 10月4日 船着小学校：地層と化石ガイド
 - 10月16日 農村生活了ドバイサーの自然観察
 - 10月19日 黄柳野小学校：きのこ観察
 - 10月30日 愛知県陶磁資料館：自然観察会
 - 11月2日 韓国慶北大学校師範大学附設中学校の見学案内とワークショップ
 - 12月16日 粟三河再発見ツアー
 - 23年2月7日 東陽小学校：地層と化石ガイド

年末恒例大そうじ大会（平成22年12月26日）

協力隊14名が出勤してくれました。いつもいつも本当にありがとうございます。最後は、ジャカメシとショウケンシ入りシカ鍋でしめました。



「自然が好きな仲間たち」のワークショップ開催

- 12月19日「クマツカを探そう！」＜東三河野鳥同好会＞
 - 1月15日「竹の笛づくり」＜風の自然学校＞
 - 1月22日・2月26日「冬の鳥を探そう！」＜東三河野鳥同好会＞
 - 1月29日「折る紙や貝殻でアートしよう！」＜NPO法人表浜ネットワーク＞
- 特別展参加グループがワークショップを開いてくれました。ありがとうございます。

春をつげる しんし3の木山桜咲く



市の木
ヤマザクラ

新城の木・開花 (平成23年4月4日)

久しぶりに鳳来寺山頂まで登山しました。例年だと花期が終っているツムシバが見ごろを迎えていました。昨秋、市の木に制定されたヤマザクラも半分咲きて、目を楽しませてくれました。これから、市の鳥「コハズク」、市の花「ササユリ」の季節が、順次やってきます。

平成23年度学術委員総会と友の会総会 (平成23年4月7日)



加藤等次
先生



小椋前会長



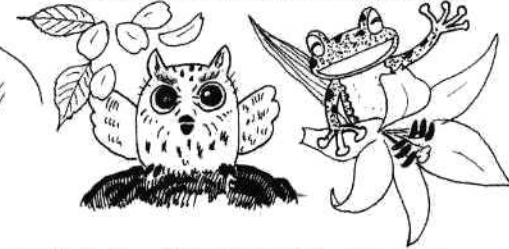
丸山新会長

新旧会長の共通点、
①自然が好き
②友の会を愛してる
③眉が太い

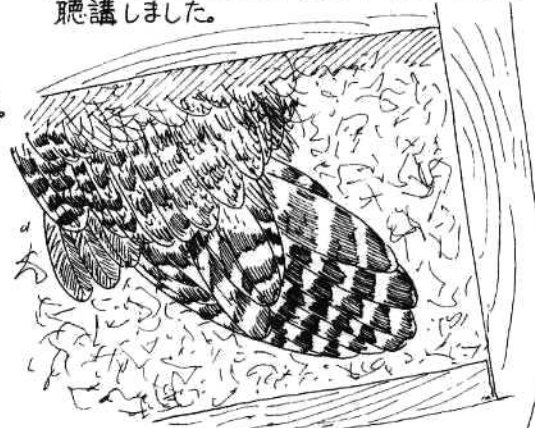
はつかり No.146 2011.4

「しんし3の花・木・鳥・石・カエル」展 (平成23年4月29日～6月30日)

合併5周年を記念して制定された新城市のシンボルを紹介し、自慢する特別展です。



平成23年度の学術委員総会を開催しました。22年度の事業報告と23年度の計画について協議しました。午後は友の会総会を開催。それに先立ち顧問の加藤等次先生の講演「東三河の貴重な植物」を聴講しました。



ワッ！何かいる!! (平成23年3月3日)

この日、コハズク用に掛けた巣箱の利用状況の調査に協力隊のなかまが出かけました。使われた形跡もなく、楽しみにしていたモモンガとの遭遇もなく、落胆の中で最後の巣箱をのぞき込んだ山本さんの声ははずみました。翼をたたんでうすくま、たように見える鳥を発見！しかもコハズクっぽいい色彩。すね、コハズクの死かいか？よく調べると、オコハズクの雛でした。巣箱内で何者かに襲われて、食べるところのない翼だけが残されたもののようでした。

友の会総会では、役員の変更がありました。今回は大きな変化がありました。15年間にわたり会長を務められた小椋さん、同じく監事の竹之内さんが退任されました。おつかれさまでした。本当にありがとうございました。会の発展のため、長年にわたり尽力してくださり、心から感謝します。二には顧問になってもらいました。また若手の深見さん夫妻に、やはり若手(……)の澤田さん、小笠原さんが入ってくれました。新体制は、会長 丸山潤次郎さん、副会長 長谷川博さん、会計 山本光昭さん、監事 澤田辰夫さん、小笠原正博さんになりました。友の会35周年の出発に、新しい風を吹かせてくれます。

また、瑠璃山No.16も発行。懇親会では五平もちをおいしく、たのしくいただきました。

野外学習会「県民の森の植物を楽しもう」 (平成23年4月29日 32名参加)

新緑の県民の森を2班に分かれて、植物観察しました。一班はじっくり、ゆっくりコース。山麓の遊歩道でじっくりと植物を楽しみました。もう一班は健脚コースで、シュートン沢を登りました。宇連山、明神山が目の前に現れ、宇連ダムや上臈岩の姿も見ることができました。

白いマルバアオタモの花が桜餅のかおりがすることに戸澤さんが気づいて、教えてくれました。

五感を使って植物を楽しむことができました。



鳳来寺山の背中
(北側から見る景観)

マルバアオタモの花

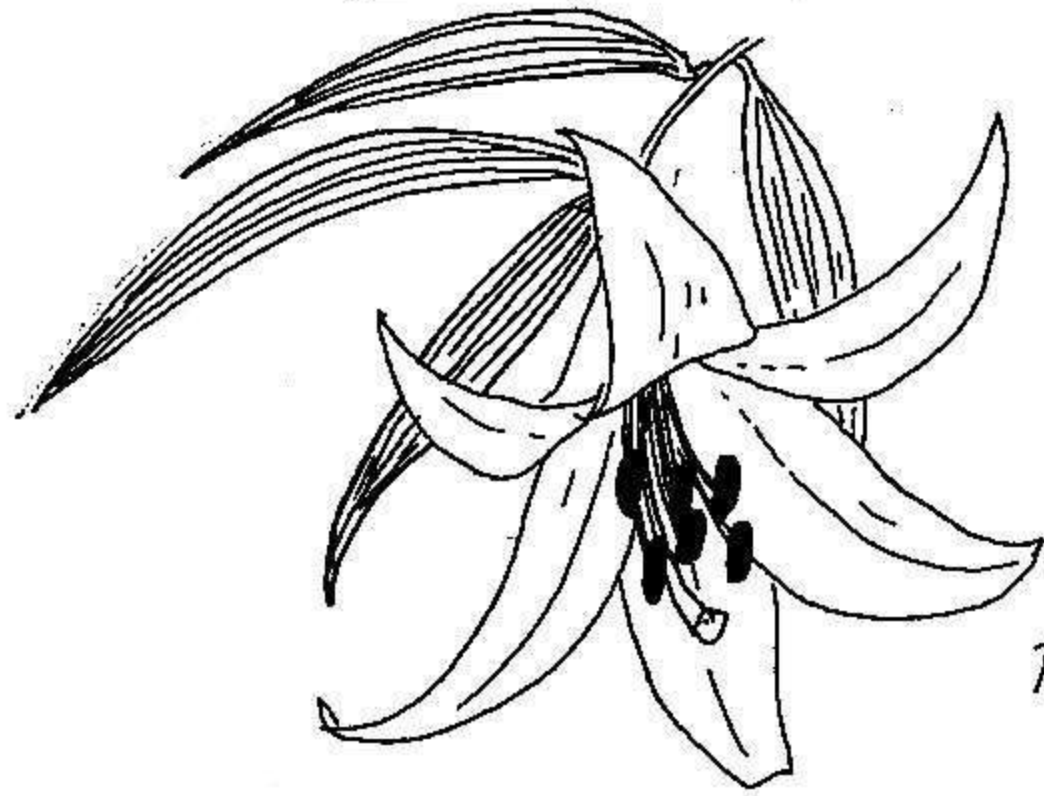
鳳来寺高校閉校 (平成23年2月27日)

昭和10年に鳳来寺女子高等学園として開校して以来76年の歴史に幕が閉じられました。館長の加藤が子どもの頃、鳳来寺山とみじ祭りに行くと、高校で毎年文化祭が行われていたと記憶しています。各教室でくみろげられる催しが強く印象に残っています。また、鳳来寺の参道の清掃作業は、開校から一度も欠かさずおこなわれ、鳳来寺山を訪れる人たちを、気持ちよく迎えてくれました。閉校に際し、博物館へ地元で採集された化石や岩石などの標本類をゆずっていただきました。



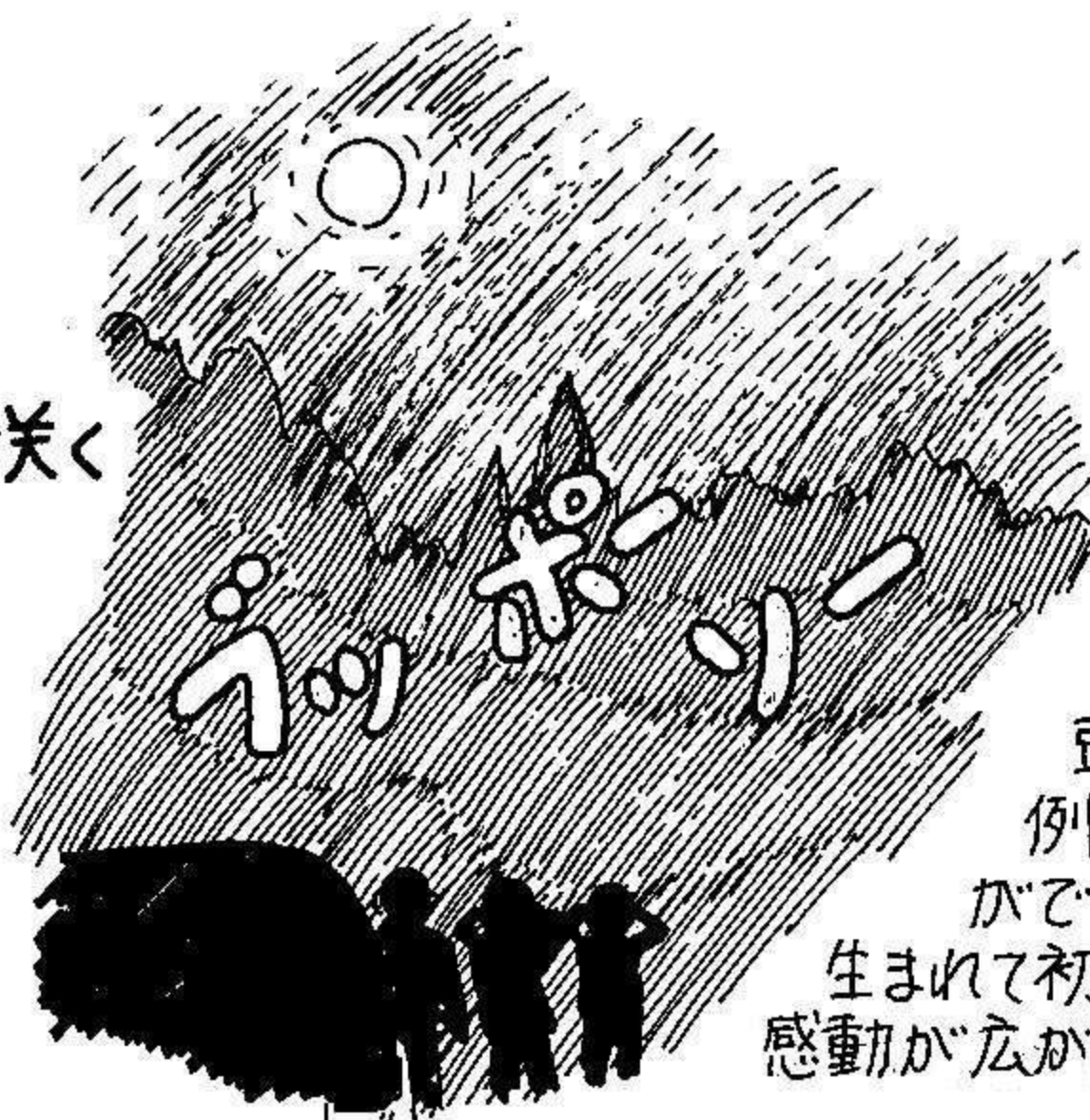
愛知県立鳳来寺高等学校
閉校式・記念パレード

笹百合の咲くころ



新城の花「ササユリ」咲く
(平成23年6月6日)

乳岩の登山口に咲いていました。昨年の秋に市の花に制定されました。上品な香りと、やさしい花が市内各地で見られました。



新城の鳥「コハズク」鳴く
(平成23年5月13日)

市内北部の鞍掛山(四谷)で初鳴きが確認されました。私たち職員も出かけましたが、頭上近くで鳴いているのが、例年になく、明瞭に聞くことができました。新任職員全員が生まれて初めて聞く、生の声で、感動が広がりました。

はなつたより No.147 2011.6

東郷中学生・職場体験
(平成23年5月25日~27日)

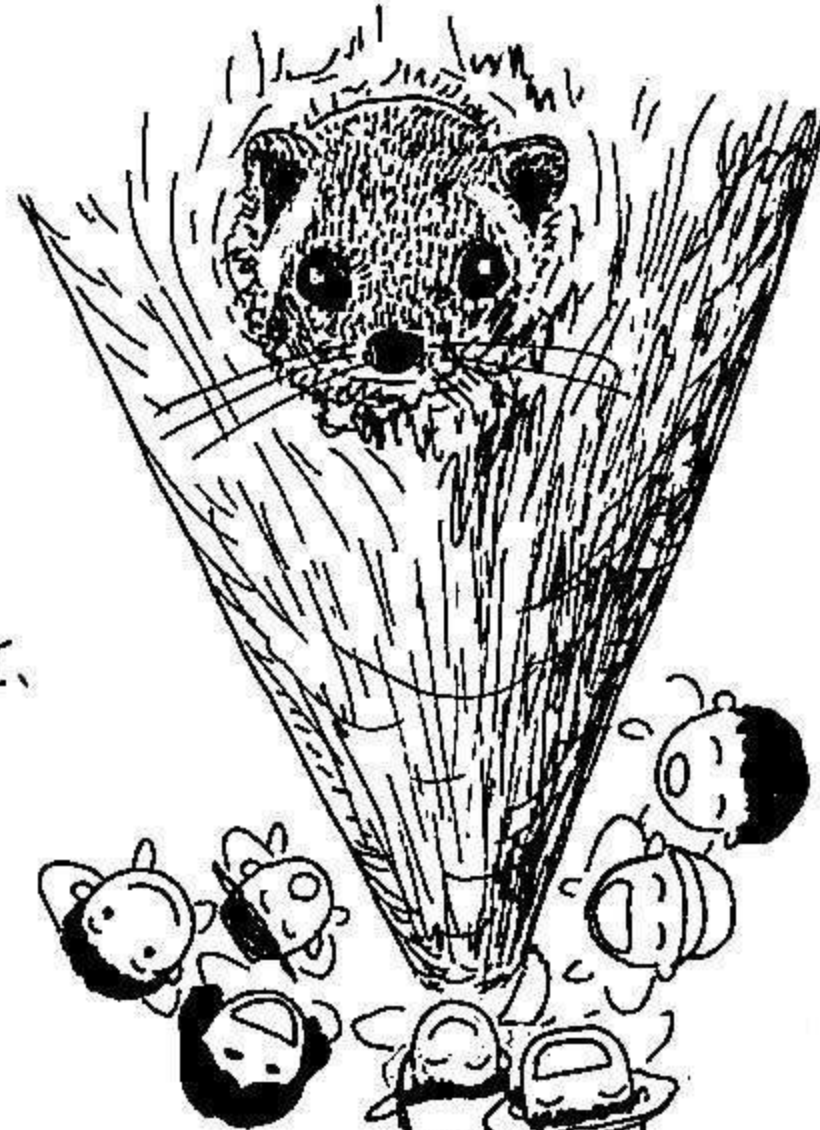
2年生の瀧川くんが3日間の体験をしました。モリアオガエルの産卵状況調査、カメ水槽のそうじ、印刷、岩石割りなどを職員といっしょに行ないました。岩石割りは、様々な石で挑戦してもらいました。いちばん印象に残る作業だったようです。



学習会「鳳来寺山でモリアオガエルや初夏の生きものを観察しよう」
(平成23年6月5日、35名参加)

5月8日にはウスバシロアゲハが山麓を舞いはじめ、モリアオガエルは5月25日に初産卵を確認(医王院横の池)。学習会の条件が整って開催となりました。

参道の石段を登ってすぐの、いつもの杉の木に到着。幹をトントンたたくと、ねむけまなこのムササビが、迷惑そうに顔を出してくれました。でも、わたしたちは大喜びでした。



最先端の研究にふれる
(平成23年5月29日、43名参加)

台風1号が接近する中で開催しました。「名古屋大学年代測定センター 博物館 東山動物園の見学」学習会です。雨で動物園は中止にしましたが、年代測定センターと博物館はしっかり見学できました。年代測定の最先端の仕事や、名大の研究活動の実績を紹介する博物館を、わかりやすく、ていねいに案内していただきました。休日を特別に開館してくださり、そこで活躍する先生(教授)に解説をしてもらうことができ、感激でした。

ジュニアナチュラリスト養成楽級「山の学校-森のこびと教室」
(平成23年5月15日、7名参加)



第1回のテーマは、「植物の見かた」です。春は山菜や花、苺など森のめぐみの季節でもあります。観察と採集をした植物は、なかま分けと、名前を調べました。

食べられる植物を12種、てんぷらにし、お弁当のおかずにして、いただきました。火気は、イタドリ、コシアブラ、ニホンタンホコホ、コゴミでした。

学校の博物館利用

- 5月12日 新城市内小規模校(連谷、海老、黄柳野、山吉田、鳳来寺小学校) 41名
- 5月14日 東邦学園(ガイドツアー) 20名
- 5月27日 豊橋南高校 320名
- 6月6日 鳳来中学校1年生 100名
- 6月13日 いわた市立富士見小学校 102名
- 6月16日 鳳来中部小学校5年生 35名
- 6月16日 北名古屋立白木中学校 101名

市内外の学校が次々に見学に来てくれました。地元の学生さんには郷土のすぐれた自然に誇りを持ってもらいたいですし、遠来の生徒さんには、自慢したいところでは。

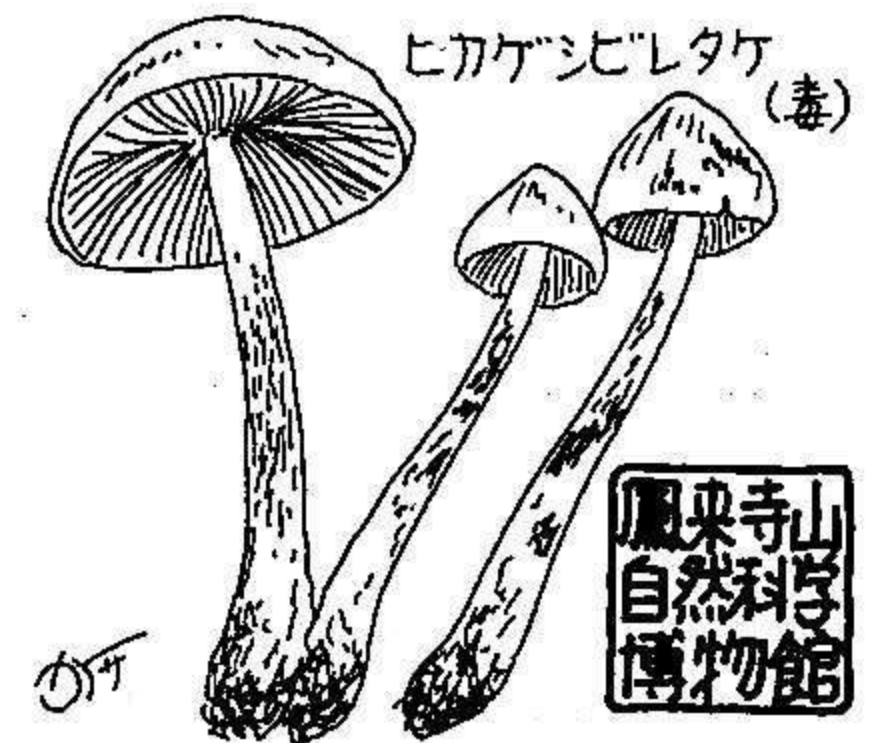
展示や案内もよりわかりやすく、親しみやすく改善していきます。



35周年友の会行事「梅雨のきのこ観察会」
(平成23年6月26日、34名参加、作手鬼久保広場)

少し雨が遠のいていて心配しましたが、たくさん目で見れば見つかるものです。

ヒカゲシビレタケやオホウライタケや、秋におなじみのハタケシメジ、ショウゲンジも発生していました。



ヒグラシの季節と博物館

7月3日ヒグラシ初鳴・7月8日入梅明け

はつなだり No.148 2011.7

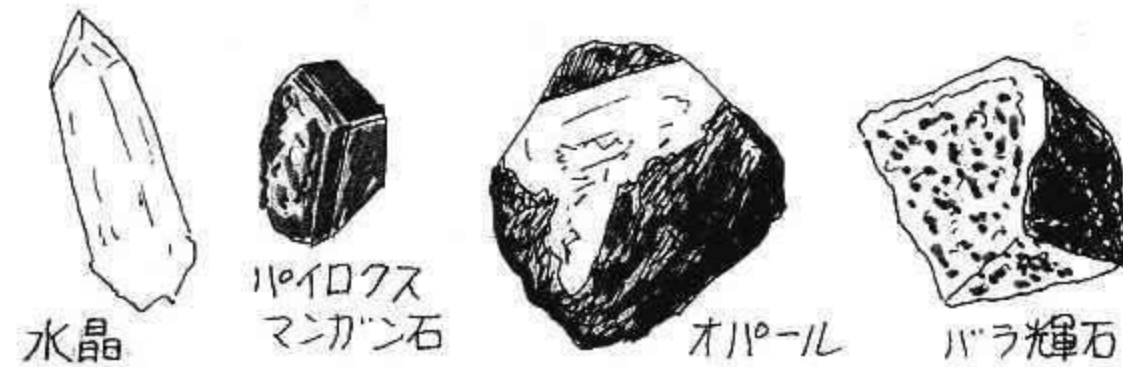


またお使いください
(平成23年7月17日)

館の裏庭に設置し、底がぬけたままになっていた巣箱を掛け替えました。ムササビが使っていました。底が落ちたときは、さぞかしびっくりしたことでしょう。これで当分は大丈夫です。友の会の役員会後、澤田さん山本さんたちが作業をしてくださいました。

休みを利用して自主研修
(平成23年7月25日)

この地方は鉱物の産地として知られ、窓口でよく質問されます。そこで、全職員で鉱物の産地を訪れ、現地研修をおこないました。棚山、延坂、田口鉱山跡、白鳥山などです。オパール、水晶、バラ輝石の産地を自分の目で確かめてきました。いきなりパイロクスマンガン石を採集(山崎)し感激。これからも積極的に研修を続けていこうと思います。



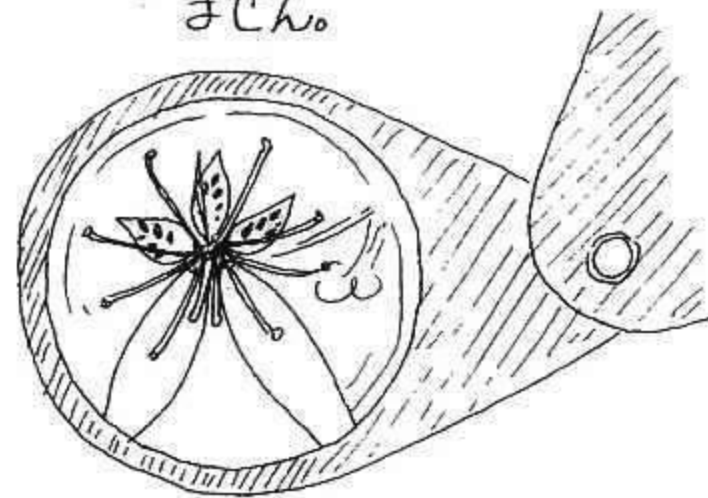
学校・自治体・企業の博物館利用

- 7月1日 浜松市立佐久間小学校(ガイドツアー)・9名
- 15日 新城市立鳳来西小学校(見学)・32名
- 26日 新城市立庭野小学校(見学)・21名
- 26日 新城設楽地区初任者研修・13名
- 26~27日 社会体験研修: 名古屋市立当知中学校 鈴木義明教諭
- 27日 岡崎市おいでん施設めぐり・21名
- 27日 イオン三好テアーズクラブ(ガイドツアー)・30名
- 30日 つくし学園(見学)・12名



キノコバエ大発生

入梅の頃から宇連川沿いで、体長~2mmのコバエが大発生しました。怒きりや人のまわりに群がり、網戸も通過して家の中まで侵入してきます。専門家に調べてもらったところスズオカコヒゲワロバネキノコバエ(*Epidapus* sp.)という未記載種と同種ではないかということでした。生態などはまだわかりません。



オクラコウホネ危機 (平成23年7月28日)

自生地として日本の東端になる市内の池の調査の為に大阪市自然史博物館の志賀学芸員が来館しました。自生地に詳しい小椋前友の会長の案内で現地へ。そこはジュンサイが一面に繁茂し、オクラコウホネの姿は見あたりませんでした。かろうじて1株を確認しましたが、このままでは消滅します。



いいな、いいな
(平成23年7月3日)

友の会員で鳳来寺小学校生の藤田さんが、地元の海老川で大きなオパールを拾いました。大きさは5cmはありそうです。全体が青く染まってとてもきれいです。こんな立派なものはないかなお目にかかれませんか。

子ども自然講座

夏休みに入った7月24日に「どうぶつのかからだ」(7名) 7月31日に「ルンペで花を観察しよう」(3名)を開催しました。

特別展「私たちのまわりの自然とくらし」

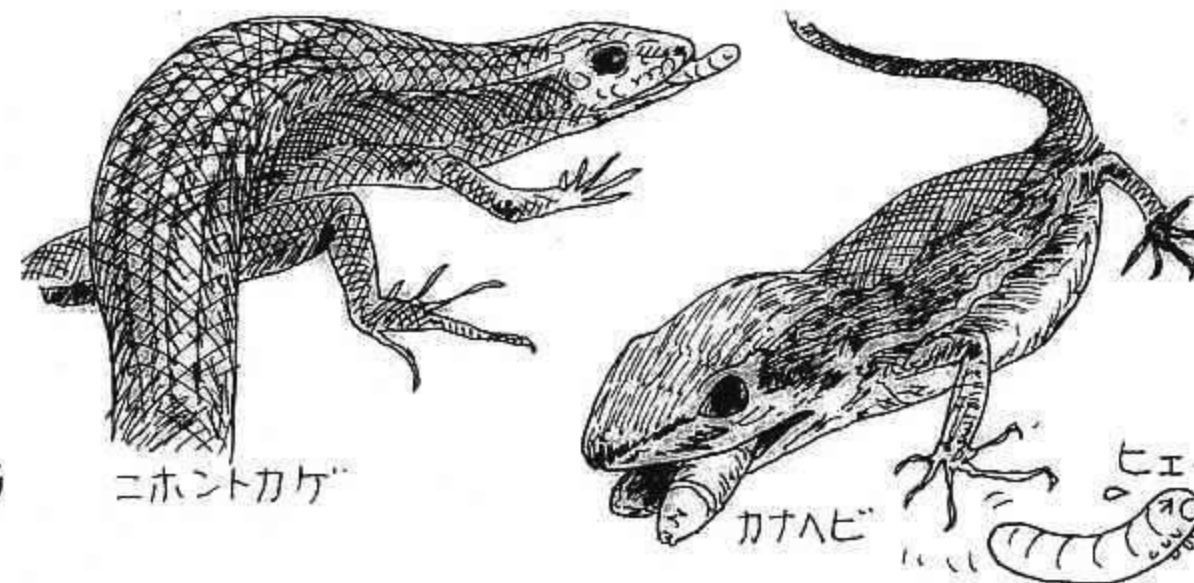
7月20日から8月31日まで開催。新しい教科書に沿った内容で、理科や社会に役立つ展示になっています。

ありがとうございます
(平成23年7月27日)

館の前に住む野澤(85才)さんが玄関の松を剪定してくれました。散髪後のようにさっぱりしました。自己流と言いつつ、確かな技で仕上げてくださいました。

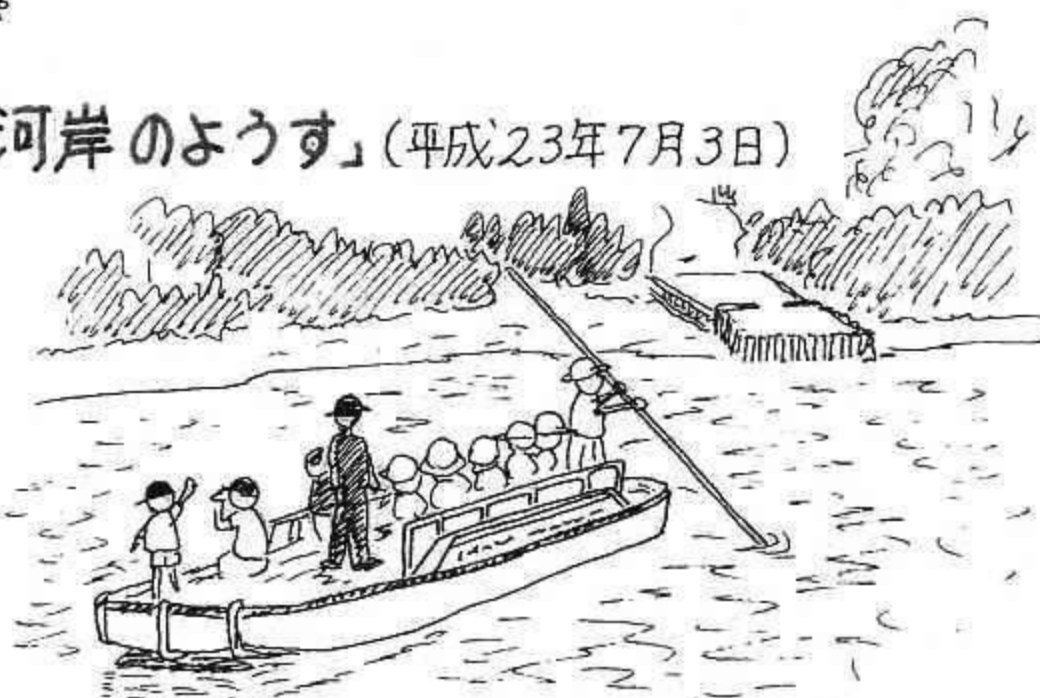
ごちそうさまです

保護動物用に飼育しているミルワームの飼育箱に行くと、丸々と太ったトカゲが現れました。ちゃっかりミルワームを食べていたようです。ごちそうの中であらうしていたようなもので、彼らはきっとメタボです。



学習会「豊川上流から河口までの河原と河岸のようす」(平成23年7月3日)

出発地の長篠付近の上流地形、富沢の河成段丘、八名井から見た段丘地形と、下流に向けて観察を進めました。迫っていた山がどんどんと遠ざかり、平地が広がっていきます。三河湾に注ぐ河口まで行き、途中、河原の石の変化を楽しみました。河口近くの牛川では、今も渡し舟が残っていて、全員が乗船。牛川町から大村町まで、豊川を渡りました。



夏の博物館・行事と活動

「博物館ガイドツアー」夏系編

学校の夏休みを利用したガイドツアーの申し込みが増えています。

8月2日 県立海翔高校(18名)

8月11日 豊川市恵の突っクラブ(35名)

8月14日 浜松ホーイスカウト(29名)

8月15日 浜松ホーイスカウト(11名)

8月20日 県砂防協会親子砂防教室(38名)

博物館内の見学案内と鳳来寺山周辺の自然観察をセットにしたガイドツアーです。参道沿いの自然散策、鳳来寺山の地質、化石と地層などなど目的はさまざまです。

博物館と鳳来寺山の魅力が、より身近に伝わればと願いつつ、案内しています。



ライトトラップ。

夏の自然合宿「鳳来寺山のフクロウや光に集まる虫を観察しよう」

(平成23年8月6日~7日、57名参加、晴のち雷雨、停電、晴)

久しぶりの泊りの観察会でした。音為川での水生昆虫と魚の観察。続いてお楽しみの夕食。というのも友の会役員の澤田さんがシカとイノシシの肉、若アゴを大量に提供してくれ、さらに藤岡さんがお米とみそ汁を準備してくれたからです。ふだんめつたに食べられないものはかりで、食望いっぱい笑顔がはじけました。食後のナイトウォッチング直後、猛烈な雷鳴と雨。そして停電。まっ暗になった木造校舎を稲光が照らして、スリル満点でした。翌朝は5時起床でバードウォッチング。自然を満喫した2日間でした。

森のこびと教室「ミクロの世界をのぞく」

(平成23年8月21日、8名+7名)

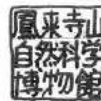
ジュニア натураリスト養成乗級の第2回です。今回はコケ植物についてです。コケの観察には顕微鏡が欠かせません。

切片をつくるのはとてもむづかしく大変でしたが、ミクロの世界は神秘的でした。



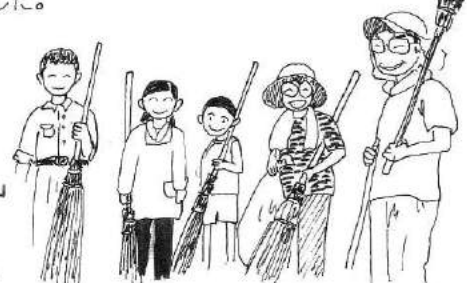
オオシラカゴケの葉の断面

はっぴなだり Vol.149 2011.8



中学生ボランティアと博物館協力隊の共働作戦
(平成23年8月23日)

鳳来中学/年生が、この日、鳳来寺参道のそうじをする事になり、博物館も協力隊員といっしょに参戦することになりました。中学生は石段入口から仁王門まで、我々は仁王門から傘杉まで。参道も心もすっきりきれいになりました。



子ども自然講座「石でアケサリをつくらう」

(平成23年8月28日)

大島産の溶結凝灰岩でアケサリ作りに挑戦しました。竹ヒゴを使った穴あけで、半日、石のみがきで半日かかりました。縄文人はどんな方法で「おこなった」のでしょうか。大汗をかいで自分だけの宝石ができました。



黄色と白のタマゴタケ

(平成23年8月4日)

新城総合公園に変わった色のタマゴタケが2種類発生していました。黄色と白色で、キタマゴタケとハマクサキタマゴタケと判別しました。

めったに出会えないきのこたちです。キタマゴは芝生、ハマクサキはシナの地上に発生。



研修・実習・体験の夏

8月3日~4日、千郷中学2年島田くん
8月25日~27日、鳳来中学2年黒田くん
博物館の職場体験。

8月3日~8日、大学生の内藤さんが
学芸員実習。

特別なメニューはありません。恒例の岩石割り、展示ラベル作り、毎朝のそうじなど。日常の私たちの仕事をいっしょにやってもらいました。

8月4日 東海三県農業クラブリーター研修

8月10日 大治町理科教員研修

鳳来寺山をはじめ、この地方の地質と動植物等を解説しました。みなさんとても熱心です。



先生のための博物館の日in蒲郡

(平成23年8月22日)

蒲郡市生命の海博物館と国立科学博物館の主催でおこなわれました。

先生、学校と博物館の連携について考えるシンポジウムやワークショップ展示がされました。豊橋市自然史博物館、碧南水族館、国立科学博物館、鳳来寺山自然科学博物館などの自然系博物館と県内の学校の先生が集まりました。



祝友の会35周年

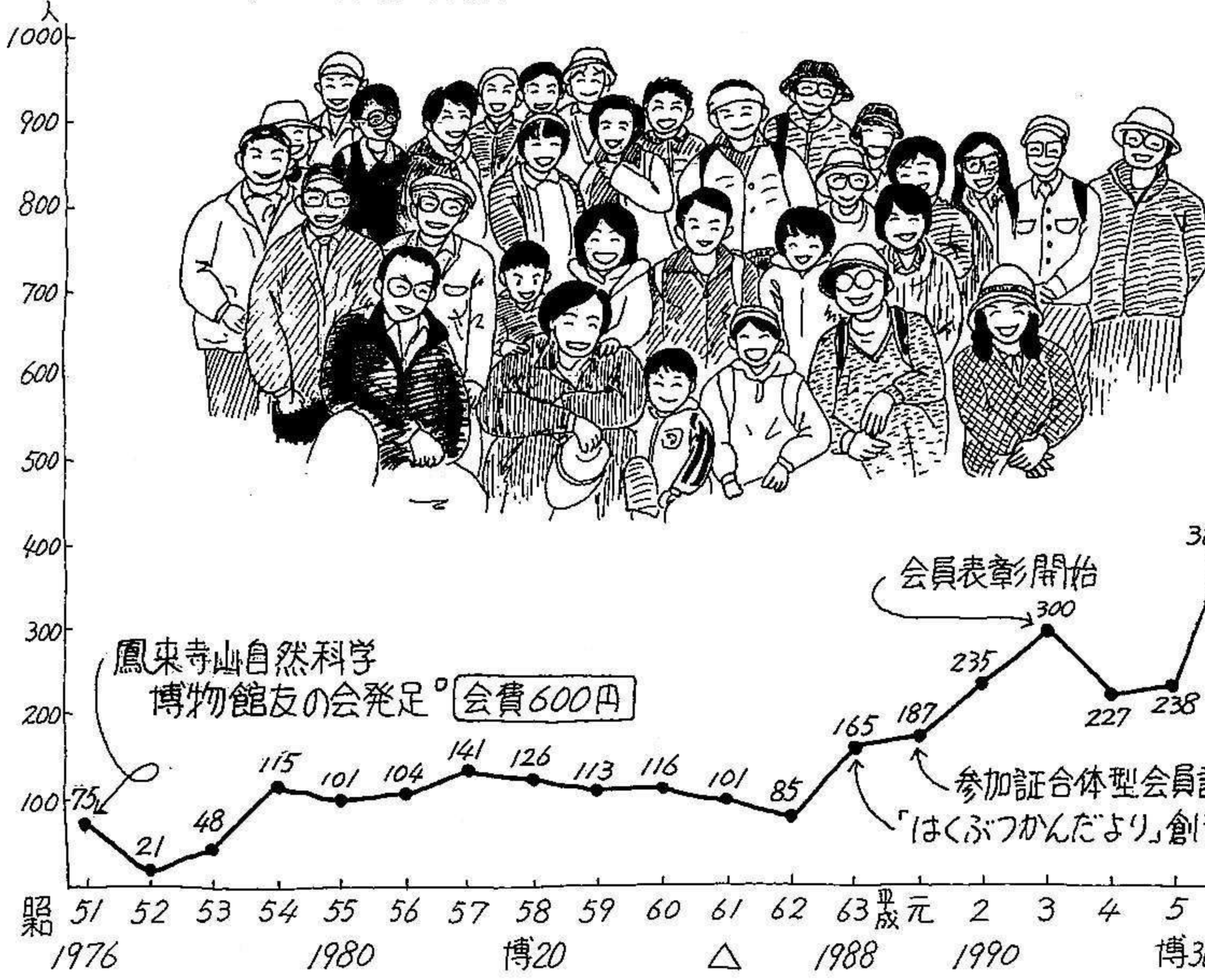
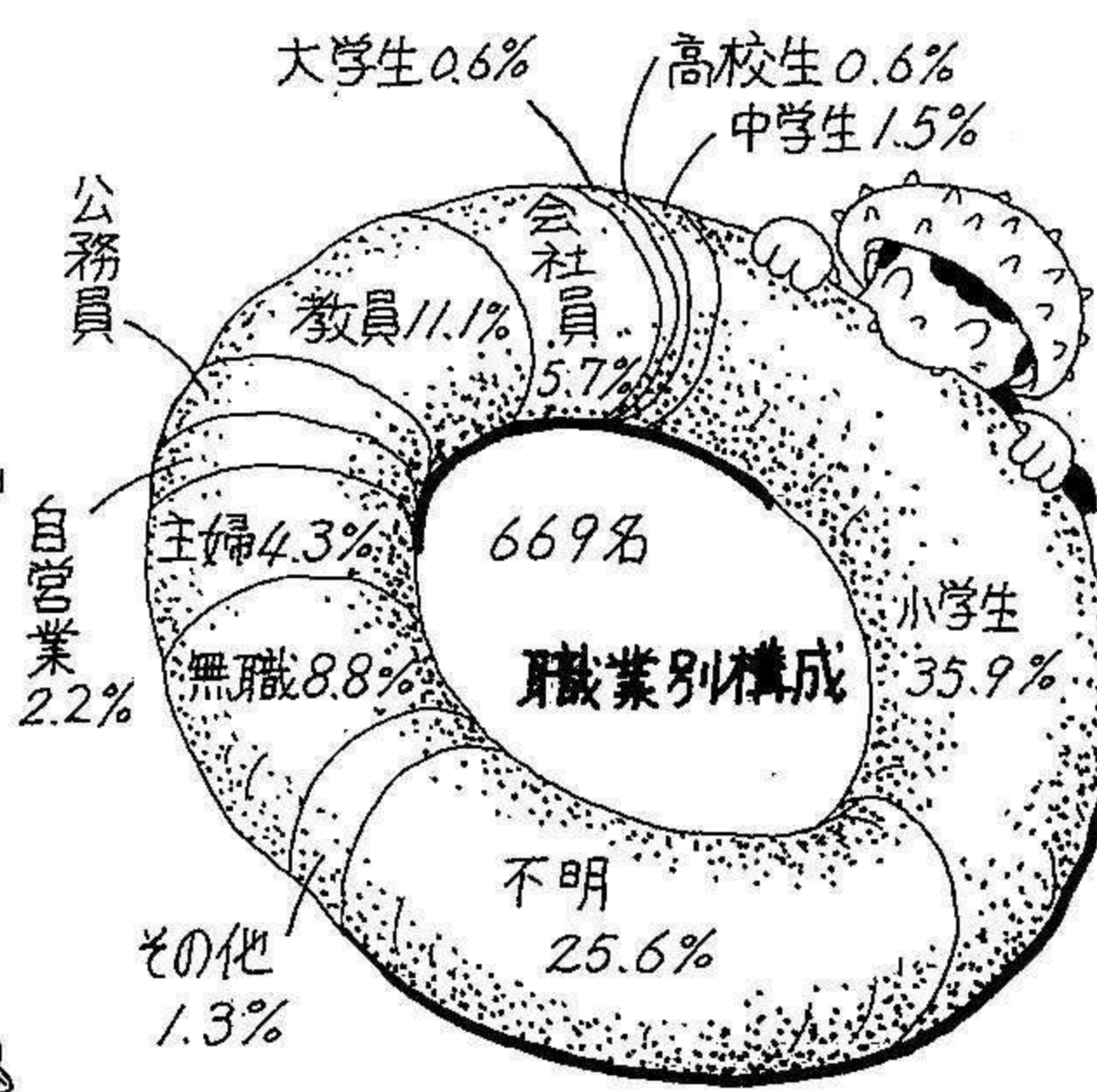
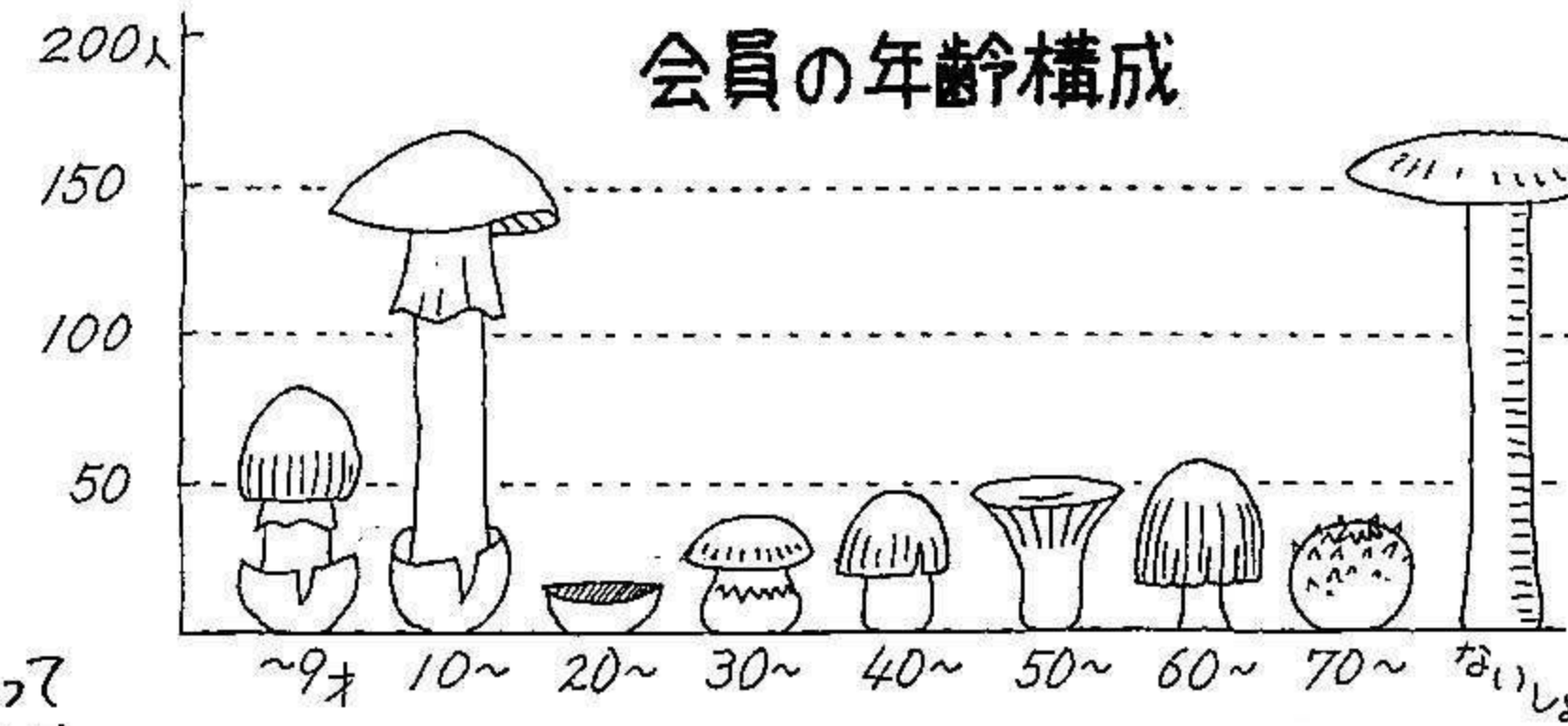
昭和57年に誕生した鳳来寺山自然科学博物館友の会は、めでたく35才になりました。平成17年には市町村合併で、鳳来町から新城市になりましたが、友の会員は以前から行政の垣根をこえて、県内外におおせ(い)いました。現在もごらんのとおりです。

この「はくぶつかんだより」も150号となり、昭和63年からかぞえて23年目。友の会の成長と博物館の歩みを記録してきました。思い出がいっぱいつまっています。会員みなさんに読んでいただけることを励みに続けられます。感謝です。

平成の時代に入り、友の会は着実に発展してきました。博物館行事への積極的な参加で毎年多くの会員が表彰されます。子どもからおとなまで、いろいろな世代の方が集まって、家族的な会になっています。

会独自の行事も充実してきました。梅雨のきのご観察やナイトウォッチング、自然合宿をおこなっています。横山前館長と歩く「館長とたずねる郷土の自然」シリーズも楽しい企画でした。

平成15年にはボランティアグループ「博物館協力隊」結成。資料整理、環境整備、学習会補助、感謝祭などのイベント運営など、博物館活動を力強く支援してくれています。



30周年記念式典開催
鳳来+作手+新城(合併)=新城市

グループ会員制導入
博物館協力隊結成

25周年記念式典開催
ボランティア活動開始・友の会行事開始

会報誌「瑠璃山」創刊
第1回友の会総会開催(20周年記念)
初代役員選出

会費改訂 おとな1000円
子ども700円
家族3000円

家族会員制導入

会費改訂 おとな1000円
子ども600円

35年の累計会員数 11,892人
10年以上継続会員数 67人

博物館の開館50周年も目前です。その時には、いっしょに祝いましょう。そして友の会40周年をめざして、さらなる発展の歴史をつくっていきましょう。

